“児童生徒理解”そして“かかわる力”の育成をめざして

教育相談スタッフ　相談セクション

子どもたちの実態や彼らを取り巻く状況はコロナ禍とも相まって多様化･複雑化し、不登校は加速度的に増加しているとも言われています。改訂版『生徒指導提要』（文部科学省 2022 年）では、生徒指導について「社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」として、新たな定義が示されました。児童生徒の傍らで彼らの幸せや成長を願い、支える私たち教職員には、“児童生徒理解の力”と“一人一人と繋がりかかわる力”がますます求められています。教育相談スタッフ相談セクションでは、今年度もこのテーマに関する研修講座や出前講座を複数実施しました。生徒指導や教育相談の実践力はすべての教職員にとって必要で大切な資質能力です。今後も研修機会の提供や研究推進に取り組んでいきたいと思います。

今年度実施した能力開発研修講座より、受講者アンケートの記述で反響が大きかった内容の一部をご紹介します。

「コロナ時代と不登校への支援のあり方～子どもの願いと学校の役割～」

立命館大学大学院教職研究科　教授　春日井　敏之先生

○子どもは大人の期待を裏切って成長するもの

・学校は失敗付きの練習ができるところ。失敗しても排除されない場所でなければならない。

・「親や教師の期待に応えられないとき、辛いとき」に、「それでも親や教師は見捨てないで愛し応援してくれている」と実感できる子どもは、自分らしく伸びていく。

○思春期は第二の誕生の時期

・大人から見た価値判断の押しつけやコントロールではなく、日常生活における子どもの小さな自己決定を尊重していくプロセスが大切。

・自己決定は、自己責任論ではない。「自己決定＋大人の応援付き」これが大切。そこから子どもの主体性は育っていく。

【能力開発研修［921］「不登校の理解と支援講座」2022 年 6 月 30 日（木）オンライン開催】

「リアルとネットの交差点～これからを生きる人たちにとってのネットの意味を考える～」

島根大学人間科学部　教授　岩宮　恵子先生

○子どもの心を理解するために必要なことは

・理解を焦らない。すぐに分かったような気にならないこと。大きな読み筋(特性、家族関係の問題、過去のトラウマ等)だけに頼らないこと。目立つエピソードだけを取り上げそれを原因と決めつけるのは NG。

・「なぜ？」が大切。言葉に出来ない何かがある。なぜあんな行動をするのか？なぜあんなことを言うのか？を考えていく。心の問題を言語化（心理化）ができない子どもたちは、身体化や行動化によって自らの心の状態を“表現”している。

○人はどういうときに安心感を得るのか

・「この人は自分を受け入れてくれる」と感じられる 1 対 1 の関係性の中、やりとりを丁寧に。

・追い詰められて危機的な状況のときに必要なのは、何人もの人から認められることよりも、1 対 1 のリアルな関係で「繋がっている」という感覚を得ること。

・支援者は「コミュニケーションコスト」が低い人（低いエネルギーでも関われる相手）になることを目指す。本調子ではないときでも話せる、黙っていても和めるという相手になれるように。人は調子を崩しているときや大変な状況にあるときは、どんな相手に対しても「コミュニケーションコスト」を高く感じてしまうもの。

【能力開発講座［1042］「生徒理解と支援講座」2022 年 9 月 16 日（金）オンライン開催】